

キルギス共和国 (Kyrgyz Republic)

1. 一般事情

面積	19万8,500 km ² (日本の約2分の1)
人口	550万人 (2013年：国連人口基金)
首都	ビシュケク (Bishkek)
民族	キルギス系 (72.6%)、ウズベク系 (14.5%)、ロシア系 (6.4%)、ドゥンガン系 (1.1%)、タジク系 (0.9%)、ウイグル系 (0.9%) その他タタル系、ウクライナ系など (キルギス統計委データ)
言語	キルギス語が国語 (ロシア語は公用語)
宗教	主としてイスラム教スンニ派 (75%)、ロシア正教 (20%)、その他 (5%)

2. 政治体制・内政

政体	共和制
元首	アルmazベク・アタムバエフ大統領 (2011年12月1日就任)
議会	一院制 (定数120)。2003年の憲法改正により二院制から一院制に移行。2007年10月の新憲法採択により定数を75から90に、2010年7月の新憲法案では120に拡大。

3. 経済

主要産業	農業・畜産業 (GDPの約3割)、鉱業 (金採掘)
国民総生産 (GDP)	72.3億ドル (2013年：IMF)
一人当たりGDP	1,158ドル (2012年：IMF (暫定))
経済 (実質 GDP) 成長率	10.53% (2013年：IMF)
物価上昇率	6.6% (2013年：IMF)
失業率	7.7% (2012年：IMF (暫定))
貿易額	・輸出：17.90億米ドル ・輸入：60.70億米ドル (2013年：キルギス国立銀行)
主要貿易品目	・輸出：貴金属・真珠・宝石、化学製品、鉱物製品、繊維製品、野菜・果物 ・輸入：鉱物製品、機械設備、化学製品、運輸関連製品、食料 (キルギス共和国統計委員会)
主要貿易相手国	・輸出：スイス、ロシア、ウズベキスタン、カザフスタン、トルコ ・輸入：ロシア、中国、カザフスタン、米国、日本、ドイツ (キルギス共和国統計委員会)
通貨	ソム (Som：1993年5月10日導入) (CIS統計委員会)
為替レート	1ドル=52.51ソム (2014年5月現在：キルギス国立銀行)



4. 農業

農業生産額	16億8,721万ドル (2012年)
主要農畜産物	牛乳 (30.7%)、ジャガイモ (17.9%)、トウモロコシ (11.5%)
農地面積	耕地：127.7万ha、放牧地：924.0万ha
主要経営形態	国営企業：0.01%、集団農場：0.13%、農民経営および個人経営 99.86%

5. 日本との関係

年	日本の輸出 (A)	日本の輸入 (B)	収支 (A-B)
2009	25,307	221	25,085
2010	36,196	186	36,010
2011	79,977	2,040	77,937
2012	72,469	1,061	71,408
2013	100,998	783	100,215

主要貿易品目 ・日本の輸出：輸送用機器 (77.1%)
(2013年) ・日本の輸入：原料別製品 (80.4%)

※出所：ロシア NIS 調査月報 2014年6月

在留邦人 135人 (2014年10月現在) (外務省)

(出所)

1-3：「一般事情」「政治体制・内政」「経済」：外務省
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/kyrgyz/index.html>
 4：FAOSTAT
 5：外務省

1. 農林水産業概況

(1) 地理

キルギス共和国は、国土の大部分を天山山脈とその支脈アラタウ山脈が占める山岳国家である。山岳の約90%が標高1,500m以上、うち40%以上が3,000m以上である。天山山脈の最高峰ポベータ峰（標高7,439m）の山脈を通過してナリン川（シルダリア川の上流）、タラス川、チュイ川が西に流れており、豊かな水資源を有している。北東部にあるイシク・クリ湖は、塩水湖であり、琵琶湖の約9倍（6,206 km²）の面積を有し冬期も凍結しない。厳しい地形・気候から、国土に占める耕作地(6%)、森林(5%)の割合は少ない。



出所：キルギス統計局

キルギスの地域

(2) 気候

首都ビシュケクは大陸性気候であり、最も気温が高い7月の平均気温は24.9℃、最も気温が低い1月の平均気温は-2.6℃である。7月の過去の最高気温は38℃、最も寒い1月の最低気温は-25℃まで達したことがある。年間を通じて降水量は少なく、最も降水量の多い4月の平均降水量は67mmであり、年間降水量は約400mm程度である。



出所：weatherbase (<http://www.weatherbase.com/>)

月平均気温と月平均降水量(左:mm、右:°C)¹⁸

¹⁸ 気温：33都市、100年間平均。降水量：33都市、96年間平均。

(3) 農業政策の特徴

キルギスは年間を通じて日照時間が長く、水資源が豊富であることから旧ソ連時代より灌漑施設が整備され、農業は基幹産業としての役割を担ってきた。旧ソ連時代における地域農業は、コルホーズやソフホーズが担い、土地は国家が所有していた。コルホーズは協同組合を形成し、生産手段や農機具は組合が所有し、営農計画や作業工程・配分などは組合内の決議で決められていた。コルホーズで生産された農作物は、組織運営のために一定枠を確保した上で構成員に配分され、地域消費を除く部分は国営流通網に供給された。ソフホーズにおいては、生産手段や農機は国が所有し、国家計画に従って農業生産を営み、計画に沿った収穫量は国家に引き渡されていた。

1991年のソ連崩壊後、それまでソ連政府や組合によって管理されていた、生産から流通までの仕組みも崩壊した。キルギスはソ連崩壊後間もなく IMF や世界銀行の指導に従い、積極的に土地の民営化を進めた結果、農地は細分化され農業機械、設備、家畜など農業生産の基本資産も私有化され、農場経営は自給自足形態および小規模商品生産の形態を持つようになった。

しかし分与地が小さいため農業生産が単純化し、効率的な農業生産、労働生産性向上の妨げとなっている。現状は主要農産物の自給水準が不十分であるため、輸入に依存している状況にある。例えば、国内市場自給率は、穀物製品が 62.5%、肉類が 57.8%となっている。

政府は農業の発展は、キルギスの食料安全保障にとって重要であり、国の安定的発展に不可欠であるとして、灌漑路の再建・発展対策、種子生産・畜産育種に対する支援対策等を実施しているが、農業生産の状況は改善されていない。

(4) 農業セクター概況

1) 土地利用

ソ連崩壊後の 1992 年のキルギスの耕地面積は 132 万 ha であり、国土面積の 6.6% を占めていた。その後減少傾向が顕著となり 1995 年には 125 万 8,000 ha、国土面積の 6.3% となった。

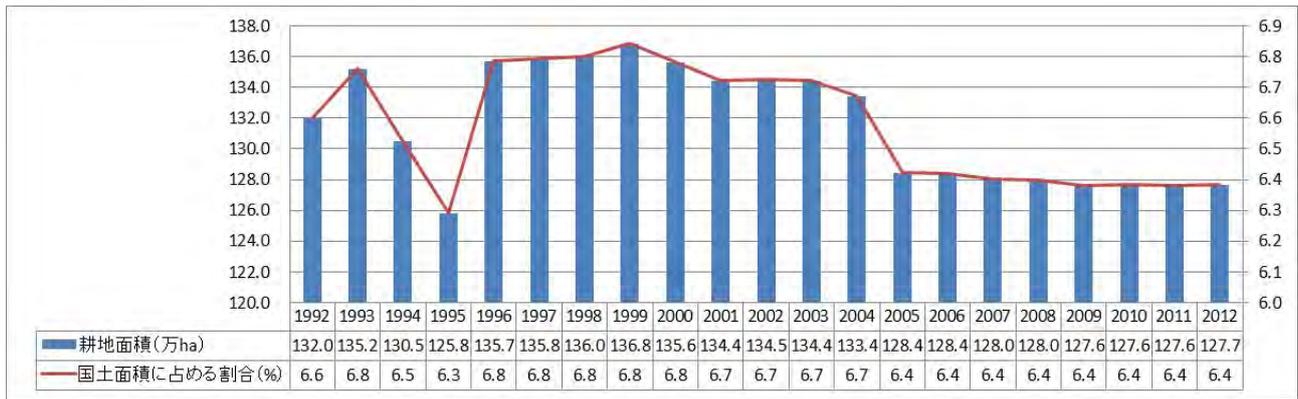
2000 年代になると増加傾向に転じ 2000 年の耕地面積は 135 万 6,000 ha となり 1992 年を上回る耕地面積となった。しかし、その後緩やかに減少を続け、2012 年には 127.7 万 ha、国土面積の 6.4% を占めている。

キルギスと日本の土地利用状況(万ha)

国	キルギス							日本
	1992	1995	2000	2005	2010	2011	2012	2012
国土面積	1,999.5	1,999.5	1,999.5	1,999.5	1,999.5	1,999.5	1,999.5 (100.0%)	3,780 (100.0%)
農地	1,008.8	1,043.9	1,071.4	1,074.5	1,061.2	1,060.9	1,059.1 (53.0%)	455 (12.0%)
耕地面積	132.0	125.8	135.6	128.4	127.6	127.6	127.7 (6.4%)	425 (11.2%)
永年作物地	6.8	6.8	6.7	7.2	7.4	7.5	7.5 (0.4%)	30 (0.8%)
永年牧草・放牧地	870.0	911.3	929.1	938.9	926.2	925.8	924.0 (46.2%)	0 (0.0%)
森林	84.1	84.7	85.8	86.9	95.4	97.1	98.8 (4.9%)	2,500 (66.1%)
その他	825.1	789.4	760.8	756.6	761.4	760.1	760.1 (38.0%)	691 (18.3%)
陸水	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5 (4.1%)	134 (3.5%)

出所：FAOSTAT、日本国農林水産省

(カッコ内は国土面積に占める割合)



出所：FAOSTAT

耕地面積の推移(左:万ha、右:%)

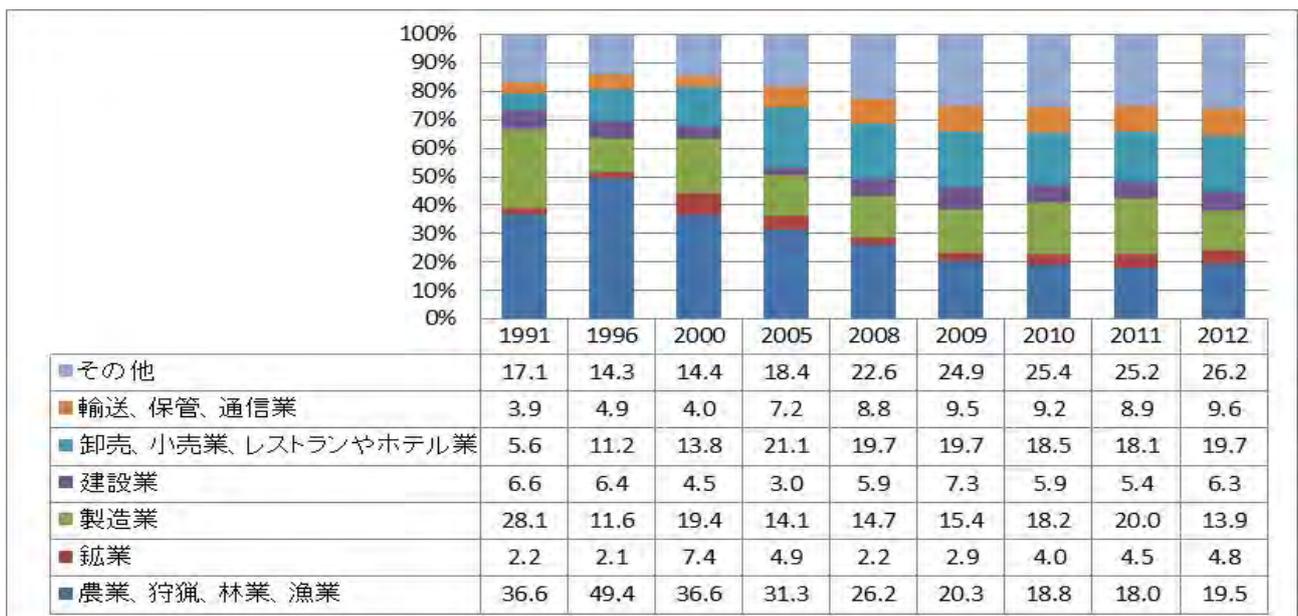
地域別の耕地面積(千ha)

	2008	2009	2010	2011	2012
キルギス全土	1,160	1,170	1,146	1,159	1,166
バトケン州	59.3	61.9	60.3	61.4	60.9
ジャララバード州	146	147.2	142.9	144.7	143.6
イシククリ州	182.2	181.5	175.6	177.5	179.3
ナリン州	101.5	103.5	95.6	99.1	102.4
オシュ州	168	170.1	170.9	171.3	171.3
タラス州	101.8	102.5	100.7	103	102.7
チュイ州	399.3	401.1	397.8	400	403.2
ビシュケク特別市	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3
オシュ市	1.9	1.5	1.6	1.8	1.8

出所：キルギス統計局

2) 国内産業における農業の比重

キルギスの GDP に占める農林水産業の割合は、1991 年は 36.6%、1996 年にはさらに増加し 49.4% を占めた。2000 年代に入ると減少傾向に入り、2012 年の割合は 1992 の約半分の 19.5% となった。

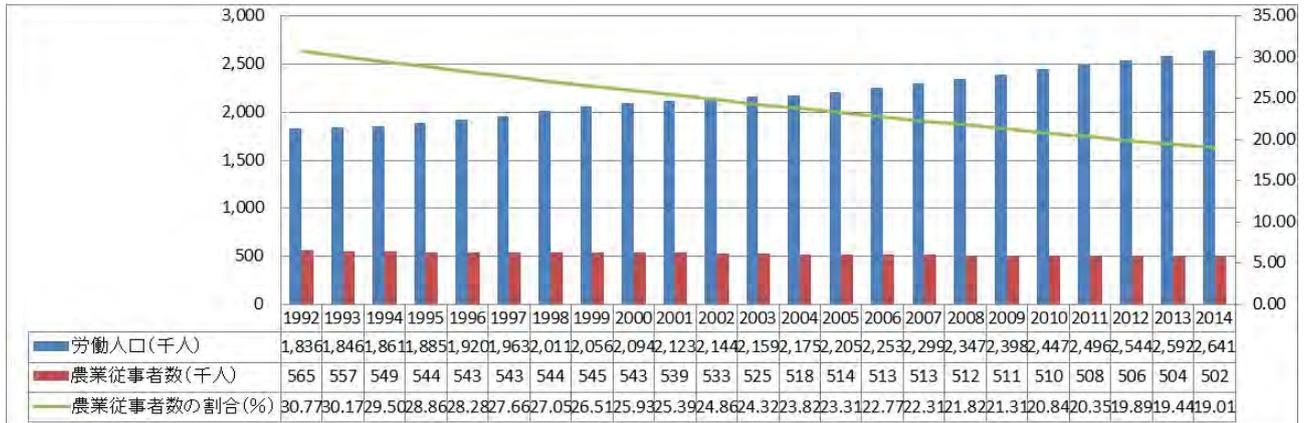


出所：国連統計

産業構造(GDP 構成比)の推移(%)

3) 農業就業人口

キルギスの農業従事者数は1992年が56万5,000人、全労働人口の約3割を占めていたが、ソ連崩壊後減少を続け、2014年には50万2,000人、全労働人口の2割弱となった。



出所：FAOSTAT

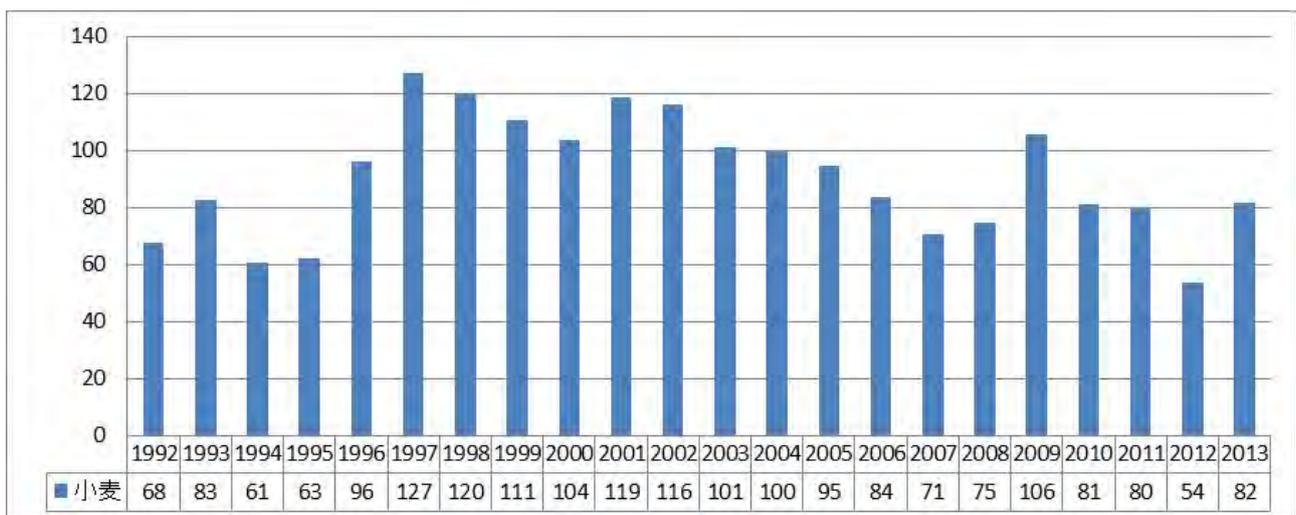
農業就業人口の推移(左:千人、右:%)

4) 農業生産の動向

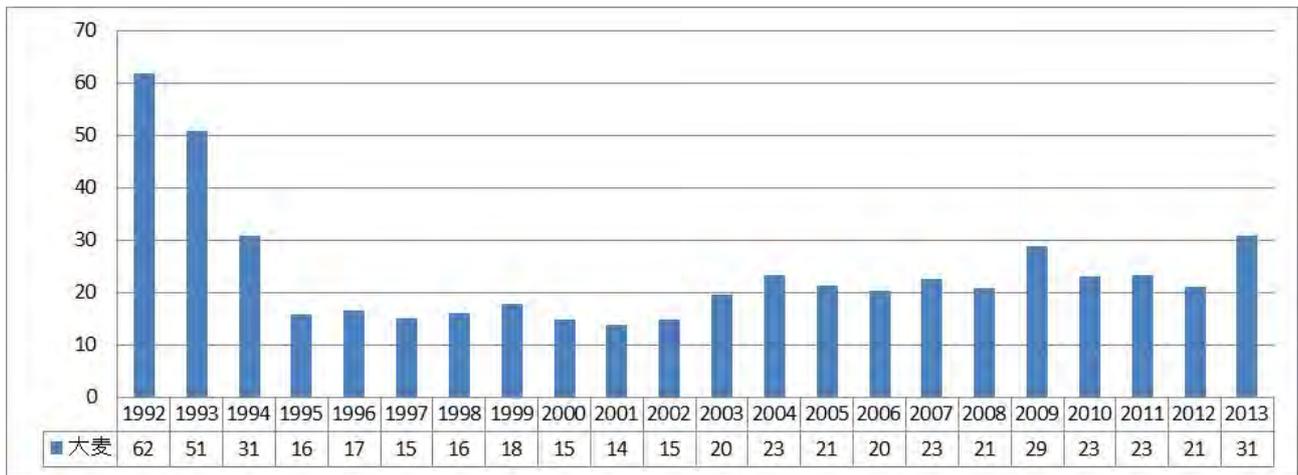
①主要農産物の生産動向

2000年以降10年でキルギスの農作物の輸出は3倍増となった。それは主として、果物、とりわけベリー類の輸出の増加による。しかし2007年以降に限ると、2007年の農作物の輸出高が2億119万1,800米ドルだったのに対し2011年には1億3,166万7,800米ドルと35%も減少している。

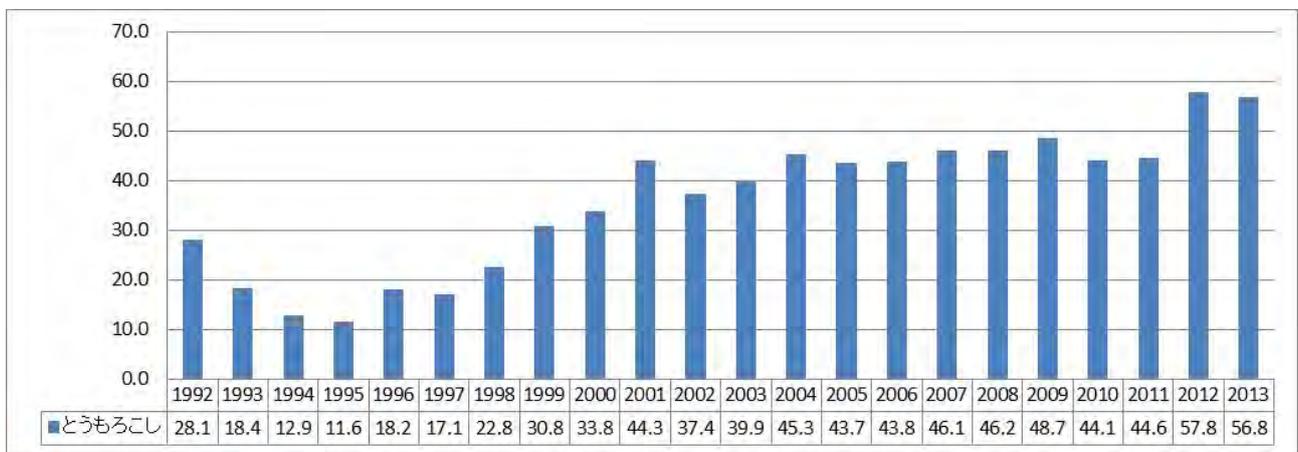
キルギスは主要な農作物の生産性は高くない。山岳地帯に位置するという地理的特性、また種子の品質が高くなく、自国に適した品種の改良が行えていない、エネルギー供給体制の不備など多くの課題がその要因となっている。また鉱物肥料の使用が作付面積のわずか23.9%、有機肥料が5.5%でしか行われていないことも関連している。その中でも生産量が増加しているのは、ジャガイモなどである。



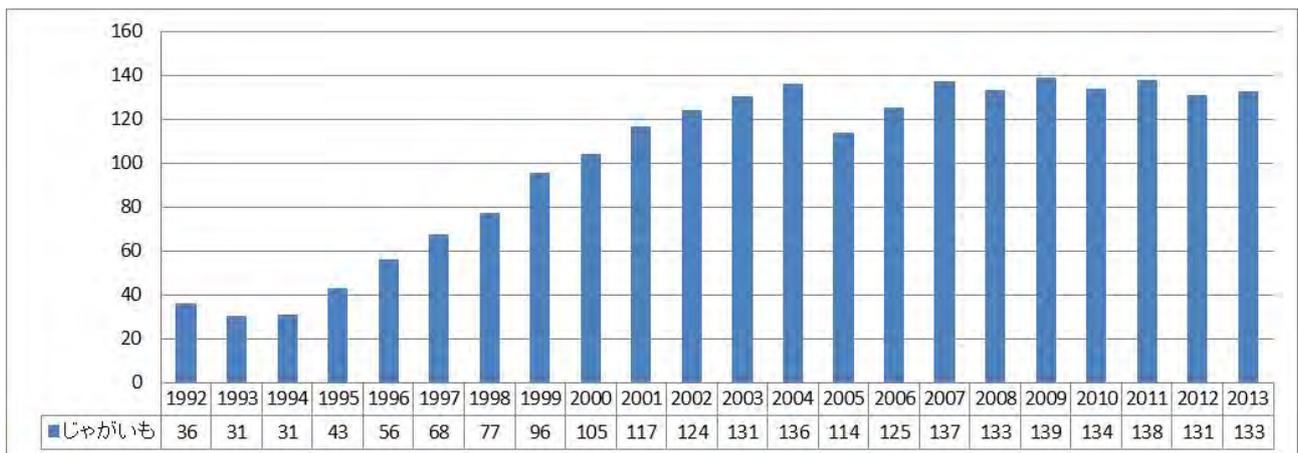
小麦の生産量の推移(万トン)



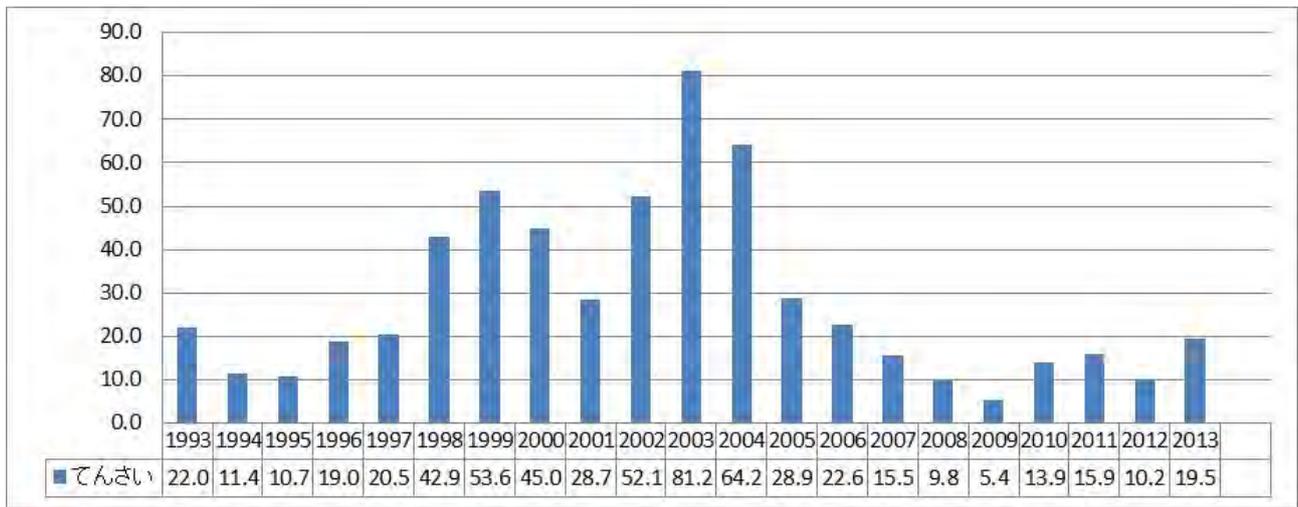
大麦の生産量の推移(万トン)



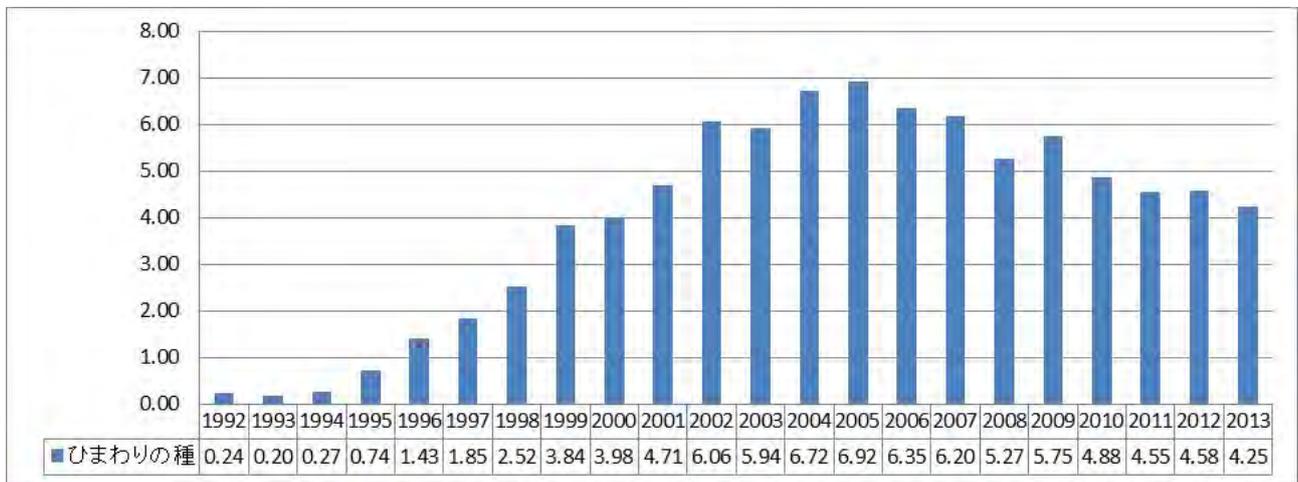
とうもろこしの生産量の推移(万トン)



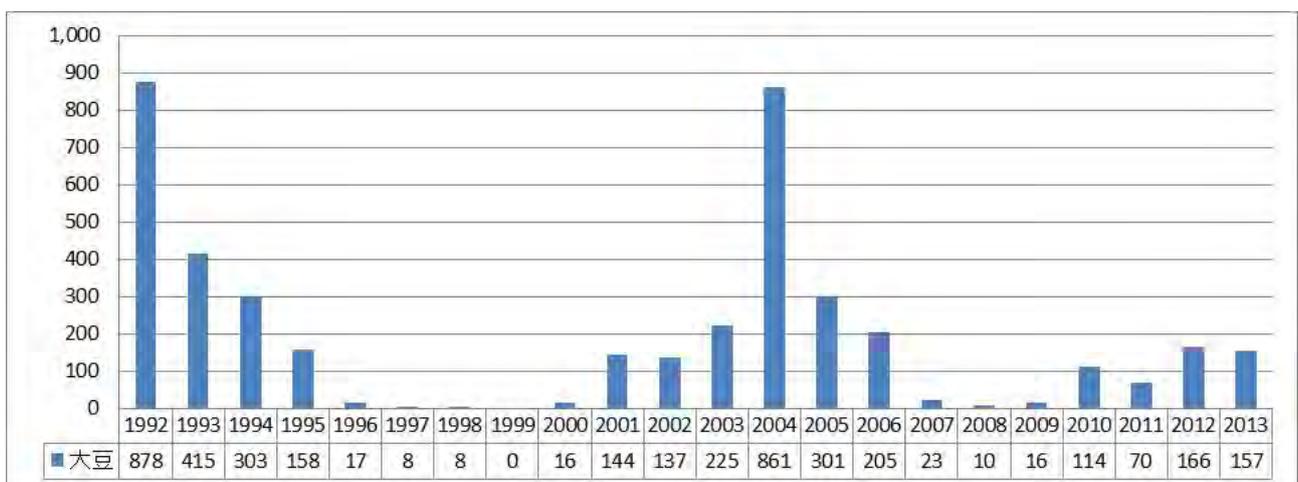
ジャガイモの生産量の推移(万トン)



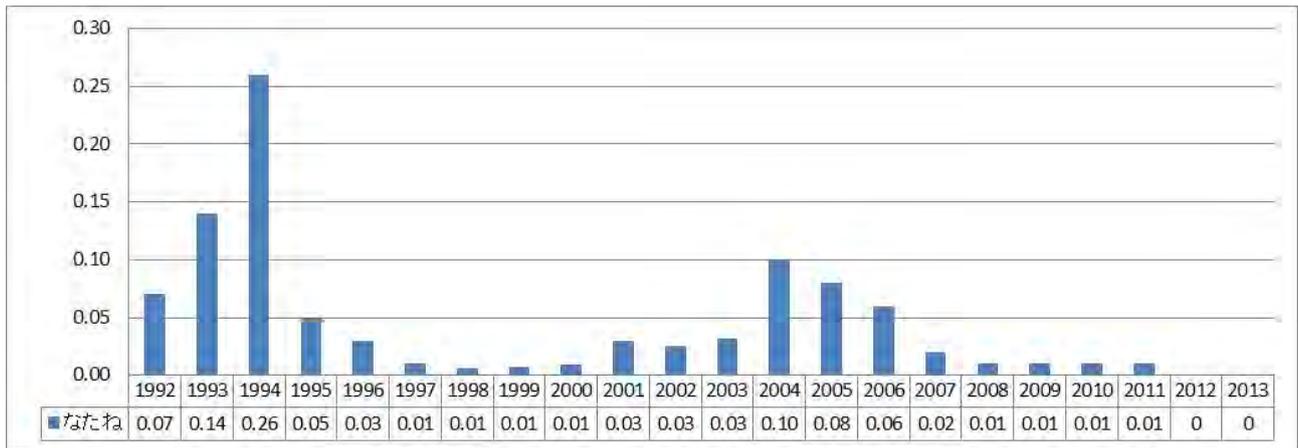
テンサイの生産量の推移(万トン)



ヒマワリの種の生産量の推移(万トン)



大豆の生産量の推移(万トン)

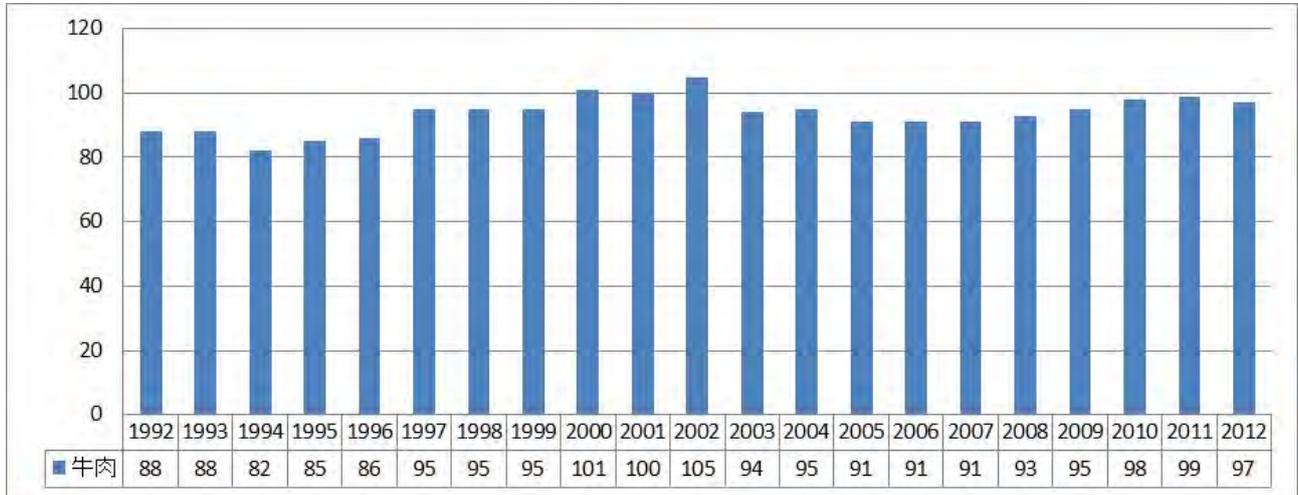


なたねの生産量の推移(万トン)

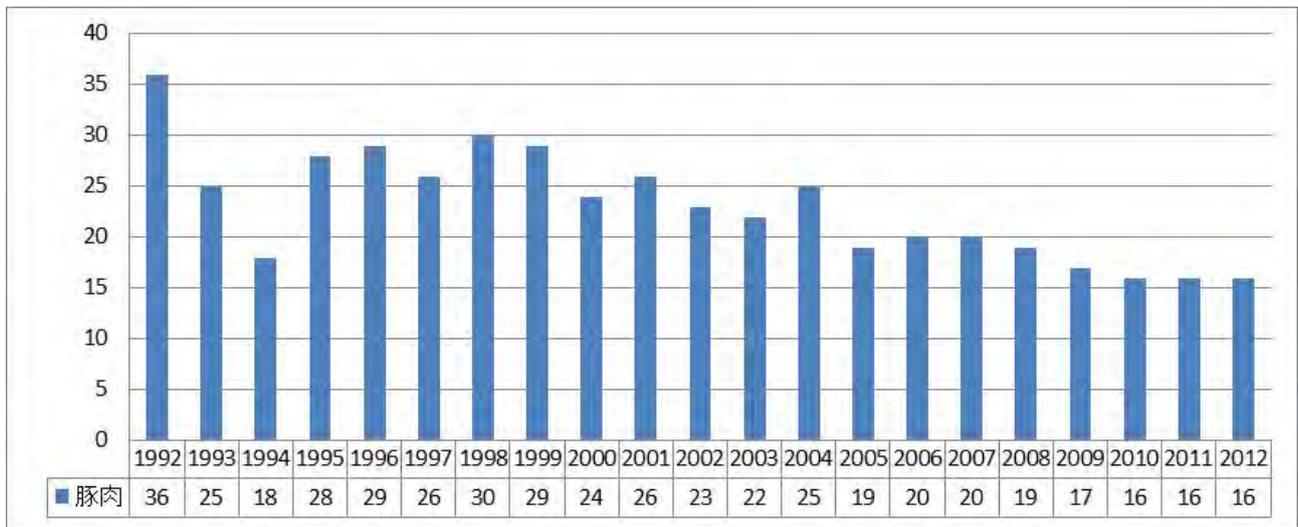
※以上 8 点、出所：FAOSTAT

②主要畜産物の生産動向

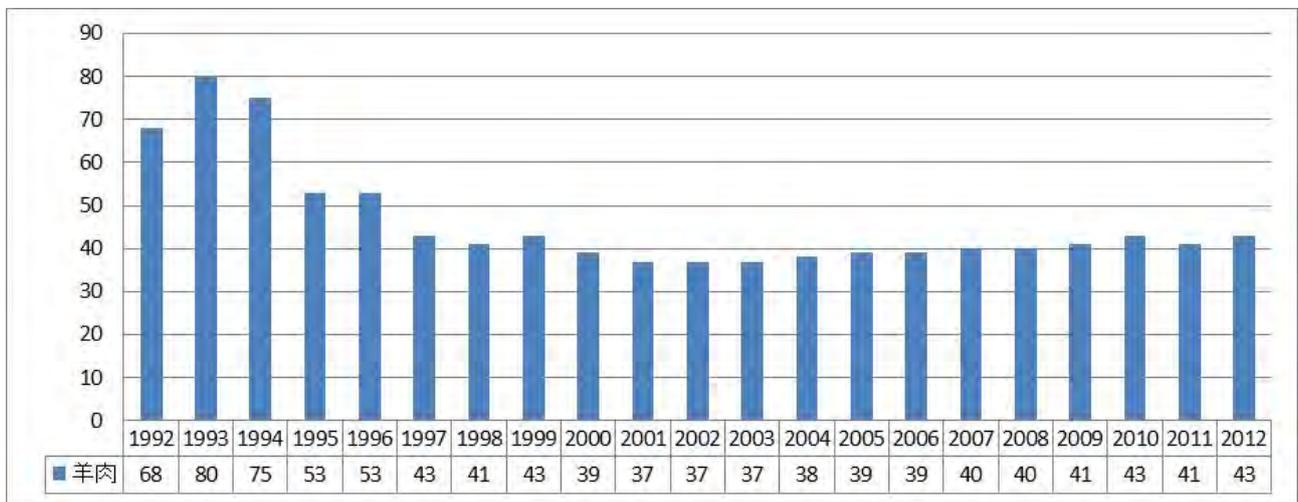
畜産はキルギスの農業生産の中で主要分野である。特に牛の飼育はキルギスの気候条件にも適しているため国内ほぼ全域で行われ、郊外では牛乳の生産、山岳部では食肉の生産が行われている。そのため牛肉、牛乳の生産量は、常に安定して好調である。一方、羊の飼育に関しては、牛肉生産量の増加や品種構造の大きな変化により生産が減少傾向にある。



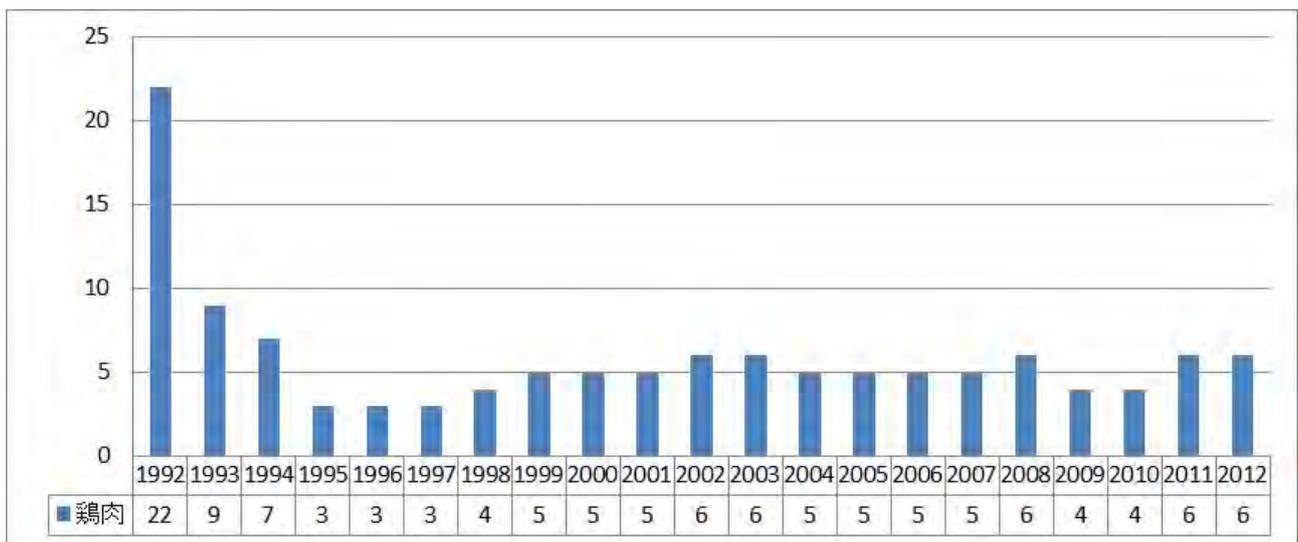
牛肉の生産量の推移(千トン)



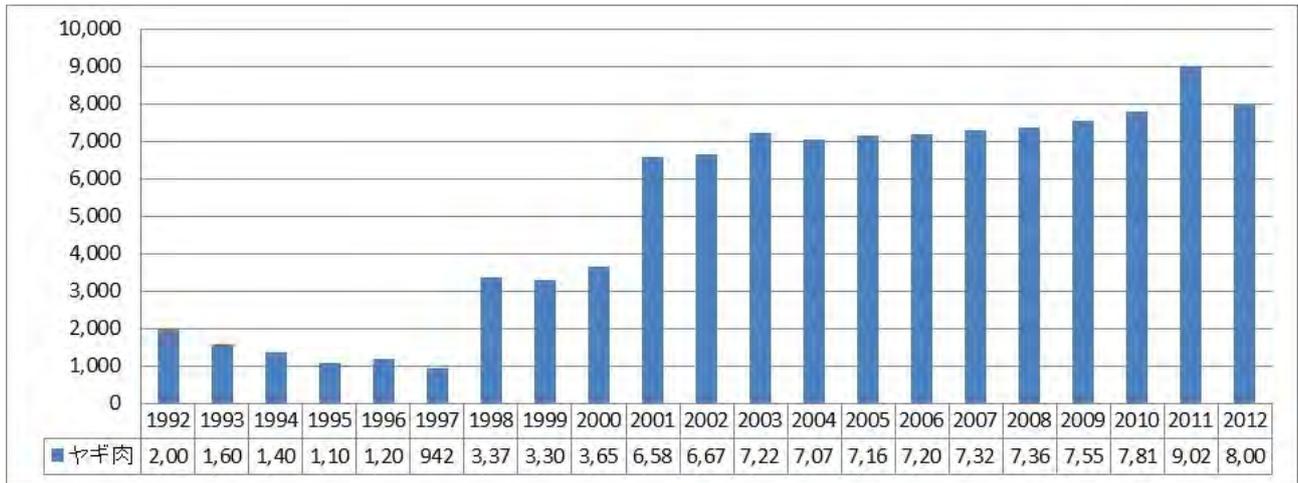
豚肉の生産量の推移(千トン)



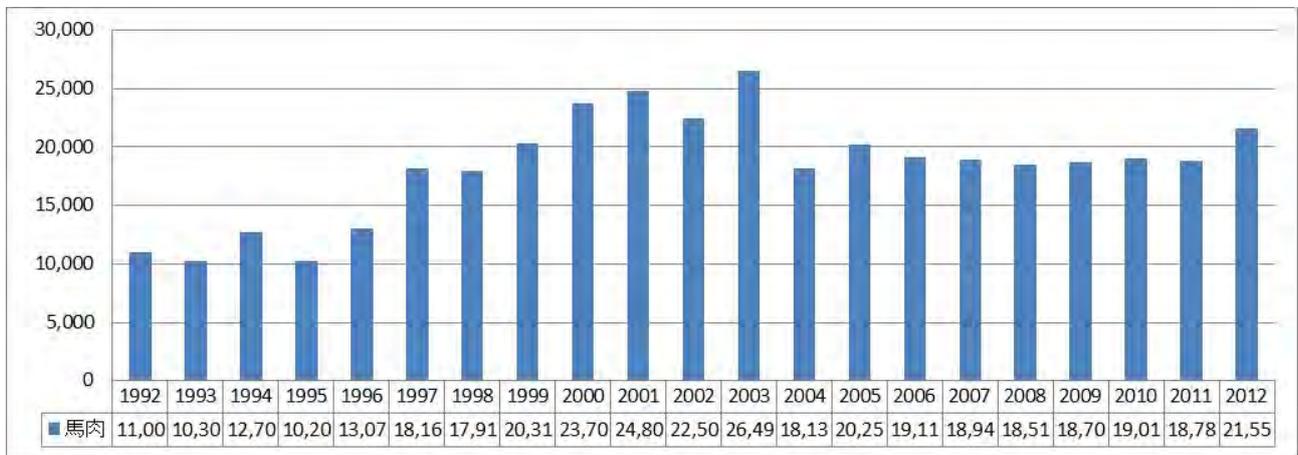
羊肉の生産量の推移(千トン)



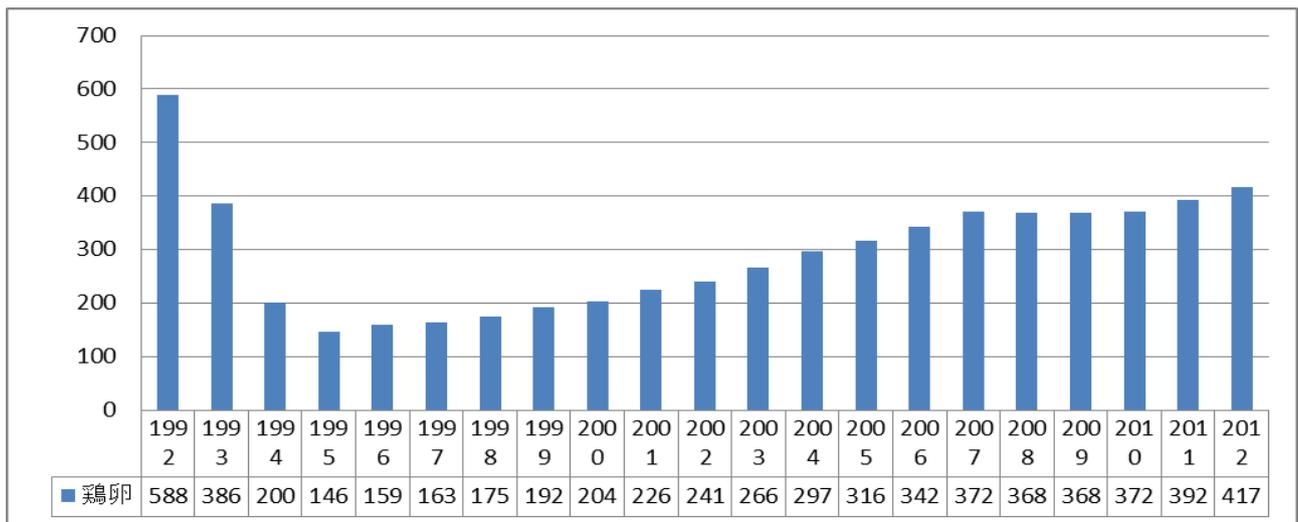
鶏肉の生産量の推移(千トン)



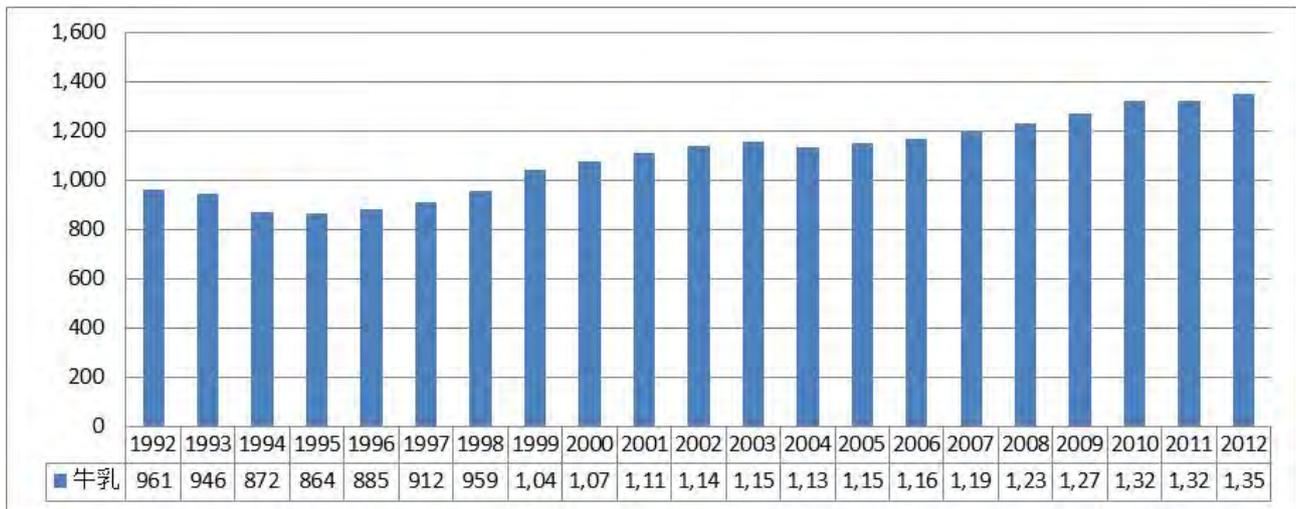
ヤギ肉の生産量の推移(トン)



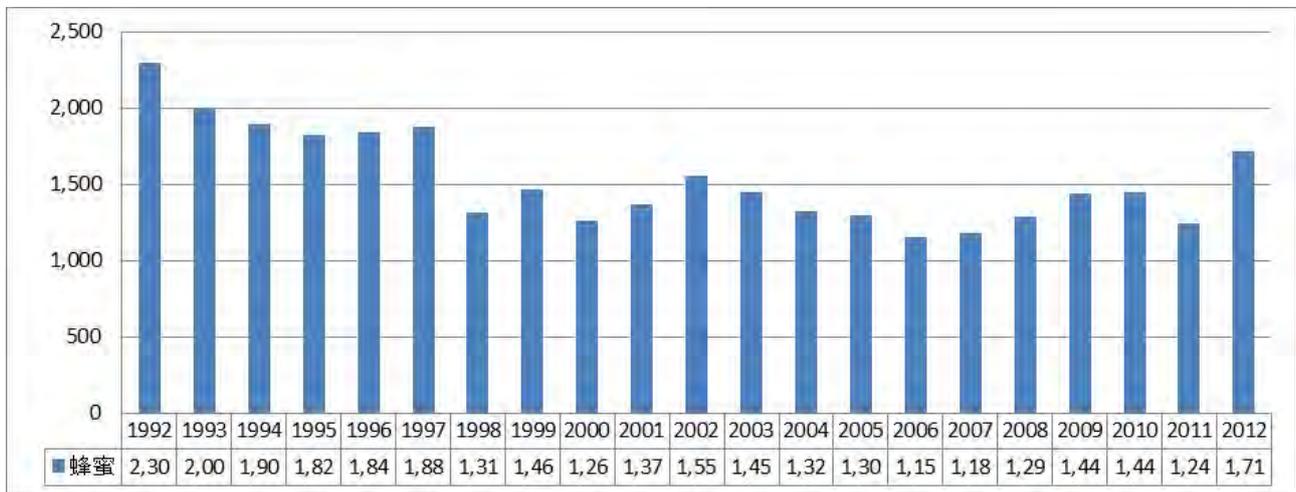
馬肉の生産量の推移(トン)



鶏卵の生産量の推移(百万個)



牛乳の生産量の推移(千トン)



蜂蜜の生産量の推移(トン)

※以上9点、出所：FAOSTAT

5) 農業経営・生産組織の動向

市場経済への移行に伴い、キルギスの農業経営主体の構造は多様化している。最大を占めるのが中規模の民間農場経営の 32 万 1,856 主体で、これが全体の 98.5%を占める。以下、民間の集団農場が 4,211 主体 (1.3%)、農業協同組合 3,454 主体 (1.0%)、国営農業が 135 主体 (0.04%) と続く。

(出典：「キルギスの農業の状態」AKI プレス http://www.cawater-info.net/review/agri_kyrg.htm)

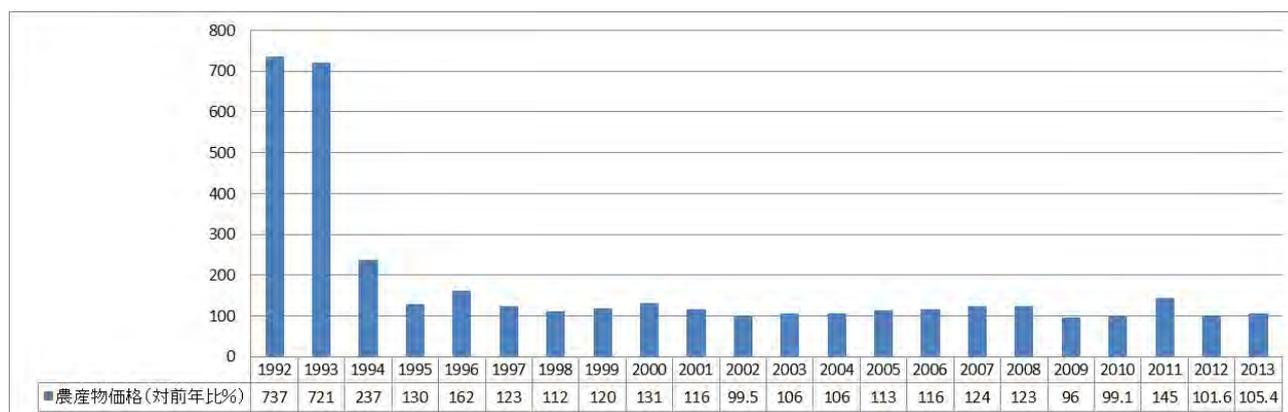
地域別農業経営体件数(件)

	2008	2009	2010	2011	2012
キルギス全土	321,856	318,815	331,059	344,492	356,642
バトケン州	24,988	27,228	31,312	34,644	34,943
ジャララバード州	94,958	90,473	83,956	86,408	89,312
イシククリ州	25,640	28,835	29,239	30,341	31,731
ナリン州	46,156	37,271	37,115	37,635	38,361
オシュ州	64,508	66,835	71,326	75,271	79,577
タラス州	16,944	17,838	19,641	20,411	21,544
チュイ州	46,709	47,893	55,977	57,213	58,547
ビシュケク特別市	62	73	97	107	116
オシュ市	1,891	2,369	2,396	2,462	2,511

出所：キルギス統計局

6) 主要農林水産品の価格

農作物の価格は、ソ連崩壊後に一時的に混乱したが、国による価格規制の結果、その後は安定傾向にあった。しかし 2011 年には農作物の価格が上昇し、小麦の価格が 54%増加した。この年はそれ以外にも 19 の農産主要品目の価格が 20~30%上昇した。キルギスは穀類、野菜などの国内生産量が少ないにもかかわらず、これらの品目の輸入に対し輸入関税をかけているため、それらが価格に反映したと考えられる。専門家は農作物の自給率の低さ、政府による不適切な食品安全政策をその原因としている。



出所：CIS 統計委員会

農産物価格の前年比の推移(%)

主要農産品価格の推移(ソム/トン)

	2008	2009	2010	2011	2012
穀物	648 608	747,228	702,052	915,728	552,303
ジャガイモ	648 449	641,145	584,729	492,292	423,047
野菜	449 805	438,222	492,857	644,621	506,286
綿花	94 578	49,669	73,890	100,024	83,594
タバコ	13 314	11,370	8,328	9,043	7,284
果実	121 928	119,755	119,400	135,307	151,656
ブドウ	5 095	5,865	1,513	4,300	4,953
ウリ科植物	118 068	108,262	135,958	134,018	167,335

出所：キルギス統計局

2. 農林水産関連国家政策

(1) 概況

キルギスではソ連崩壊後、土地の私有化、コルホーズ、ソフホーズの解体などによる農業の民営化が促進されたが、その結果、農地の細分化が進み効率的な営農が困難となっている。また政権交代が繰り返されているため、農業政策に一貫性がなく、農業インフラ整備や農業分野への支援スキームの整備が遅れている。

このような中、キルギス政府は 2012 年に政府プログラムを策定し、国の経済危機からの脱出や輸出促進による経済成長、投資環境の整備を目指した。さらにその実現方策として、翌年、「政府プログラム 2013-2017」として具体的なプロジェクトが整理され、農業分野についてもプロジェクト名、予算、実施時期などが明記されている。ただし、2015 年 1 月現在、その多くは実現されておらず、レビューもなされていない。

農業分野において「2020 年までの農業発展戦略」が FAO の支援のもとに定められ、キルギス共和国の食糧安全保障水準指標の抜本的改善、農業の生産増加と競争力向上、輸出の増加、生産者の収入増加を目標とした。ただし、そこに掲げられた事業に予算的裏付けはなされていない。その他、有機農業促進や農民組織化推進などの付随するプランもドナー支援のもとに作成されているが、これらも長期的に予算的裏付けがないことが課題である。

(2) 政府プログラムの概況

キルギス共和国は 2012 年 9 月 5 日「キルギス共和国政府プログラム」(No.2264-V) を策定し、以下の 7 つの緊急課題に対峙することを示したが、その中で、輸出能力拡大の一環として農業振興の必要性がうたわれている。

- ・ 国の経済危機からの脱却
- ・ 国の輸出能力拡大および戦略的改革の実現と安定した経済成長
- ・ 内外の資本導入を可能にする快適な投資環境とビジネス環境の創出
- ・ 国家の公共サービス等社会的義務遂行
- ・ 民族の安全と社会秩序保証
- ・ 汚職撲滅
- ・ コンパクトな国家経営と効果的システムの構築

またこのプログラムでは、農業・食品加工分野は、国民の大多数の充実した生活を実現するために必須な部門と認識されているが、生産インフラと流通環境の整備が緊急の課題としている。また、コンパクトな国家経営や効率的なシステムの構築として、民間部門の育成による産業発展の必要性を掲げ、農業や食品加工分野におけるクラスター政策や PPP などの事業推進をおこなうこととなっている。具体的な方策は以下の通りである。

- － PPP の原則に基づき加工企業、農機・トラクター製造業者の協同組合設立、輸出支援拡大
- － 資金・クレジットインフラ、リースなどの発展により、政府資金と農業設備の利用拡大
- － 特定の事業に必要な資源（土地、資金他）を配分し、適切な価格で品質の良い商品の供給。育種業と優良家畜業のサービス提供と先端技術の利用拡大
- － 灌漑設備の建設・再建、土壌改善、土地の効果的利用への助言。鉦物肥料等供給支援

- －海外市場進出とともに、農産品生産者、加工企業、卸売・小売業の経済的連携の強化支援と農業クラスターの発展
- －環境負荷が小さい安全・安心な商品の開発

また、この中で対外貿易においては世界貿易機構（WTO）の理念に基づき、CIS 諸国、ユーラシア連合との二国間貿易協定と多国間貿易協定に則ることを明記したうえで、2010年に発足したロシア・カザフスタン・ベラルーシ関税同盟に対する同国の対応課題が明示されたが、この段階で関税同盟への参加は明記されていない。

（3）その他の政府プログラム 2013-2017 年

このような中、2013年1月21日付大統領令「キルギス共和国の安定的発展の国家戦略 2013-2017」が策定された。この中では農業分野については農工コンプレックスの発展を目指し生産環境の整備、農産品の品質向上および国の食糧安全保障の確保を目標とした。その実現方策は以下の通りとしている。

「政府プログラム 2013-2017 年」農業分野事業内容

分野	内容
効率的な営農形態の創設と農業技術者の育成、農業生産への集中に必要な諸条件の整備	農業省の組織改組、職員の再教育 農業従事者への技術普及 農地取引の公正化と促進
農業生産増大と輸出農産品への支援拡大	小農の組織化と大規模経営の推進、優先的な資源配分の実施 PPP方式による農産品の付加価値化チェーンクラスターを通じた農業従事者への支援 農産品の安全性の向上のための検査基準創設と検査施設の設置 農産加工業への支援 海外市場（ロシア・カザフスタン）を意識した生産と主要輸出先国との合意形成 有機農業の推進
農業生産に必要なサービスとマーケットインフラの供与	家畜登録制度、獣医サービスの民営化推進 関税同盟の基準に適合した農産品検査システムの導入 キルギスの気候に適した家畜・植物の育種推進 PPP方式による営農、農機購入ローン創設とMTSの創設 農産品卸売システムと卸売市場の設置
灌漑水と農地の効果的な利用の推進	灌漑システムの修復と新設による灌漑農地の増加 節水灌漑等の新技術導入、WUAによる水管理 公有地と農地の境界の明確化 農地の多目的の転用の禁止

また、これに対し以下の通り投資プロジェクトが定められたが、2015 年現在、その進捗状況についての確認はない。

農工コンプレックスにおける投資プロジェクト（2013-2017 年）

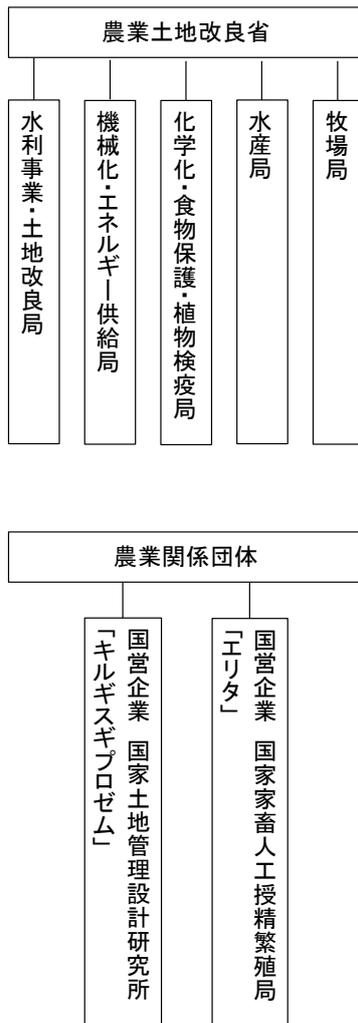
No.	プロジェクトの名称	総評価額 (百万米ドル)	実施期間
1	鉦物肥料生産工場の建設	2.0	2014-2015
2	14 カ所の種子生産農場の設立	7.4	2013
3	選ばれた農業協同組合の需要を完全に満たすため、各州に 1 カ所ずつの畜産育種農場網の設立	8.5	2013
4	品質認証国際規格に合致する最新の試験所コンプレックスの設立	1.6	2013-2016
5	国営企業「キルギスポチタシ」の再編とそれを基盤として農村部であらゆる種類の銀行業務を提供する郵便貯蓄システムを各村の行政機関アイル・オクモト内に創設すること	5.55	2013-2017
6	牛の人工授精センター用設備の購入（300 基）	0.5	2013
7	農業機械 225 基のリース資金提供	5.0	2013
8	農業機械リース資金提供	20.0	2013-2014
9	キルギス共和国農業省付属水経済・土地改良局の建設機械の装備	10.0	2013
10	（バトケン州カダムジャイ地区ブルガンジン山地の）灌漑設備の建設完了と 3,498 ha の新灌漑地の導入	8.3	2013-2015
11	ジェティ・オグス地区カラ・ブルン水路の建設	4.2	2013-2014
12	チョルボン・アタ町の下水を利用した土地の灌漑	1.7	2013-2014
13	アク・タリン地区のアク・サイ川の中央取水設備の再建（500 ha 導入）	1.7	2013
14	カダムジャイ地区カラキシユタク・ボス水路の建設（270 ha 導入）	8.1	2013-2015
15	タラス州カラ・ブウリン地区サリムサク水路の再建	9.4	2013-2015
16	チュイ州チュイ地区シャムシ川における BDR（10 日間流量調整用調整池）の建設	4.2	2013-2014
17	アクシー地区レンジット溪谷の水供給率を向上させるためのベシユ・バトマン水路末端部の再建	8.0	2013-2014
18	バトケン地区 R-4vx 水路の建設および現存の R-4 水路の補強	5.2	2013-2014
19	トン地区アク・オレン水路の再建	8.4	2013-2016
20	カラ・ブリン地区バフティ・ノゴイ水路の建設	2.5	2013-2014
21	パンフィロフ地区カラ・トゥマ BSR（日間流量調整用調整池）の再建と農場内水路の建設	5.2	2013-2014
22	ジュムガル地区バシユクガンディの土地の灌漑	0.7	2013
23	灌漑発展図の作成	2.2	2013-2017
24	灌漑地の土地改良	11.0	2013-2017
	合計	141.35	

(2) 2020年までのキルギス共和国農業発展戦略

前述のような中、キルギス政府は FAO の支援のもと、生産性向上や食糧安全保障を目標とした農業発展戦略を策定している。その概要は以下の通りとなる。ただし、2015年5月までにロシア、カザフスタン、ベラルーシ等の関税同盟に加盟することを目指していることから、経済的環境が変化することになるため、具体的な方策は関税同盟加入後の各種プログラムや制度変更に基づくものとなる。

執行責任者	キルギス共和国農業土地改良省
共同執行者	技術支援：国連食糧農業機関（FAO）
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業製品に対する国民および経済の需要の完全な充足と国家食糧安全保障の確保 ・ 農業の生産量の増加、製品の品質改善と効率の向上
短期および中期の補足目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 付加価値の高い農業製品の生産量の増加 ・ 加工される農業製品の比重の増加 ・ 農業製品と食料品の品質と競争力の向上 ・ 国内市場における農産食品に対する需要の充足 ・ 農産食品部門の製品の販売市場の多様化と輸出量の増加 ・ 食品工業に必要な原料の供給 ・ 農産食品部門の労働者の収入の恒常的増加 ・ 農業の生産過程が環境に与える悪影響の最小化
課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協業化の発展 2. 農産および畜産の生産量の増加と効率の向上 3. 農業における水資源管理の改善 4. 土地市場の発展 5. 加工部門の発展 6. 技術開発の導入と商業の発展 7. 農村の金融システムの発展
主な指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業製品の総生産量の動向 ・ 加工される農業製品の比重 ・ 環境に配慮した農産食品の比重 ・ 農業分野とキルギス全体の平均年収の比較 ・ 労働生産性 ・ フォンド装備指標 ・ 作物別収穫率の指標 ・ 畜産の生産性指標、種類別の家畜頭数 ・ 再建、近代化された灌漑・排水インフラに関する指標 ・ 給水状態が改善された灌漑地の面積 ・ 1農場あたりの平均農地面積
実施の段階と期間	<p>戦略実施期間：2013～2020年</p> <p>段階：2013～2015年、2016～2017年、2018～2020年の3段階が予定されている。</p>
投資計画の総資金供給額： 財政ギャップ：	<p>444億7,470万ソム</p> <p>-373億8,680万ソム</p>
期待される主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ キルギス共和国の食糧安全保障水準指標の抜本的改善 ・ 農業の生産増加と競争力向上、輸出の増加 ・ 農業商品生産者の収入の増加

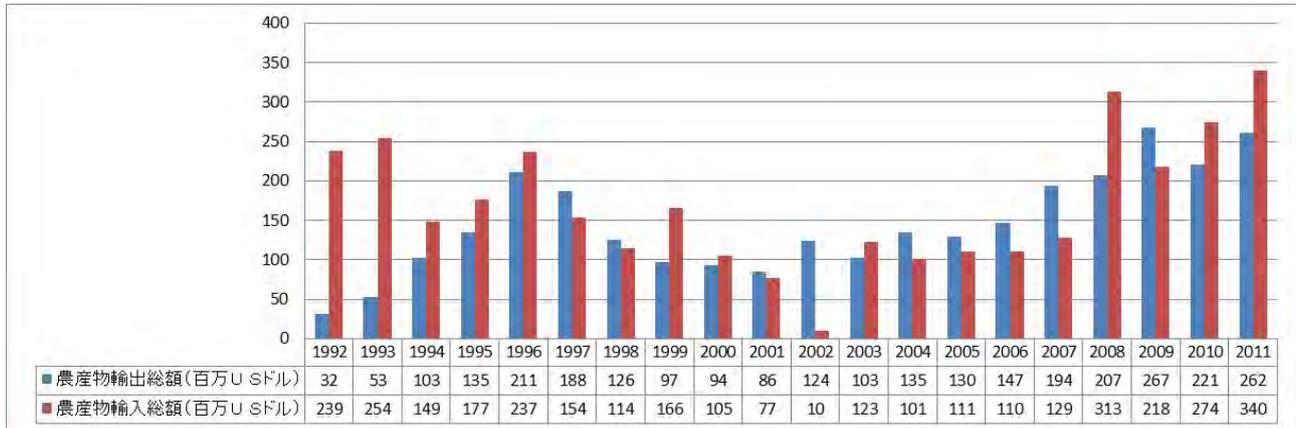
3. 農林水産関係政府機関・団体



4. 農林水産貿易の概況

(1) 貿易状況

ソ連崩壊後、キルギスの農産物の輸出は1996年をピークに減少に転じ、2003年以降また増加傾向となった。2000年代になると一時的に輸出が輸入を上回るようになるが、2010年以降輸入が大幅に伸び、2011年の輸入額は約2億6,000万米ドル、対前年比18.5%増であった。



出所：FAOSTAT

農産物輸出入総額の推移(百万米ドル)

(2) 輸出

穀物、野菜などの日常生活に欠かせない食料の多くを輸入に頼っているため、国内生産量の大部分はキルギス国内の消費にまわされている。そのため、これらの品目の輸出量は限られ、例えば、2008年はジャガイモが生産量全体の26.2%、野菜が18.8%と低い。輸出が好調なのは、自国の気候に適した作物に限られている。輸出相手国はこれまでロシアとカザフスタンが中心だったが、近年ではアゼルバイジャン、タジキスタン、ウクライナ、ドイツ、フランス、トルコへの輸出も増加している。

輸出農産物上位5品目(2011年)

品目名	輸出額 (百万米ドル)	農産物総額に 占める割合 (%)
豆	52	19.8
木綿	31	11.9
ジャガイモ	19	7.1
たばこ	13	5.0
ミルク(全生乳)	10	4.0
上位5品目計	125	47.8
上記以外農産物計	137	52.2
農産物総額	262	100.0

出所：FAOSTAT

(3) 輸入

キルギスは前述の通り、主要農作物の生産力が低い。そのためその不足分を輸入によって補っている。例えば、穀物では、2008年には55万7,000トンと、消費量の50%超を輸入に頼っている。

近年、食肉に対する需要が増加していることから、カザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタンなどの隣国、あるいはイランやアフガニスタンなど従来あまり取引のなかった国からも輸入している。

輸入農産物上位5品目(2011年)

品目名	輸入額 (百万米ドル)	農産物総額に 占める割合 (%)
精製糖	77	11
チョコレート製品	67	9.6
小麦	67	9.6
鶏肉	57	8.1
ひまわり油	46	6.6
上位5品目計	314	44.8
上記以外農産物計	387	55.2
農産物総額	701	100.0

出所：FAOSTAT

5. 農業投資状況

(1) 農業投資概況

農業全体の投資はその生産力の低さが原因できわめて小さく、投資全体の数パーセントを占めるに過ぎず、減少傾向にある。2000年には3.7%であったが、2008年は2.3%、2010年には1.9%にまで減少した。

政府による全投資に占める部門別の割合の推移(%)

部門	2000	2005	2010
工業	42.2	37.8	43.5
農業・漁業・林業	3.7	3.5	1.9
建設	0.7	0.4	-
輸送・通信	32.2	15.9	16.9
商業(自動車修理、日用品等)	3.0	4.8	5.1
その他	18.2	37.6	32.6

出所：CIS統計委員会

(2) 他ドナーによる支援

農業・狩猟・林業分野への外国投資額の推移(百万米ドル)

	2009	2010	2011	2012	2013
外国投資総額	660.9	666.1	849.2	590.7	964.5
農業、狩猟、林業分野への外国投資額	0	0	0	2	0.3

1) 国際連合食糧農業機関 FAO

戦略目標別プロジェクト

キルギスの企業のためにFAO資金により進行中のプロジェクト (2014年1月1日現在)

技術協力プログラム(TCP)

記号	名称	期間	予算総額 (米ドル)	2014/1/1 現在 使用可能額
TCP/KYR/ 3401	TCP Facility TCP施設	2012-2014	183,587	56,854
TCP/KYR/ 3403	近代的穀物管理および害虫駆除技術を推進するためのファーマー・フィールドスクールの発展	2013-2015	397,000	353,706
TCP/KYR/ 3404	キルギスにおける動物識別および追跡システムの発展	2013-2015	417,000	416,022
TCP/KYR/ 3405	キルギスにおける食糧安全保障問題対処に向けたキヌアのテストと推進のための技術支援	2014-2015	50,000	50,000
TCP/KYR/ /3501	TCP Facility TCP施設	2014-2015	63,375	0
TCP/KYR/ 3502	改善された飼料の価値連鎖、生産、使用を通じた食糧安全保障および農村発展のための水産養殖生産の強化	2014-2016	337,000	0
TCP/KYR/ 3503	キルギスにおける牧草地の持続的利用と保有管理の能力開発、意識向上	2014-2015	330,000	0
TCP/SEC/ 3402	水産養殖と養殖漁業の気候変動への適応力の強化	2013-2015	371,000	358,752
TCP/SEC/ 3403	中央アジアにおける国家植物衛生監督業務の強化	2014-2015	425,000	0

FAO 信託ファンドと国家の共同プログラム(TF/GCP)

記号	名称	期間	予算総額 (米ドル)	2014/1/1 現在 使用可能額
GCP/INT/ 123/MUL	経済協力機構加盟国における種子部門の発展	2013-2015	400,000	323,432
GCP/KYR/ 006/EC	キルギスにおける国家食糧安全保障情報システムの強化	2011-2014	1,820,000	580,907
GCP/KYR/ 010/GFF	気候変動環境における山岳部の森林および土地資源の持続的管理 (FPG)	2014-2018	5,454,545	0
GCP/KYR/ 011/GFF	気候変動環境における山岳部の森林および土地資源の持続的管理 (PPG)	2013-2014	90,909	14,041
GCP/KYR/ 012/FIN	キルギスにおける持続的な水産養殖のために	2014-2016	1,983,209	0
GCP/RER/ 031/TUR	水産業および水産養殖発展のための中央アジア地域プログラム(FISHDEV - CA)	2009-2014	1,799,998	275,341
GCP/RER/ /	旧ソ連における危険な化学物質を含むた	2012-2015	8,000,001	5,252,688

040/EC	めに廃止された未使用の農薬の再使用の防止能力の改善			
GCP/RER/042/GFF	中央アジア諸国とトルコにおける農薬のライフサイクルマネジメントおよび残留性有機汚染物質含有農薬の廃棄(PPG)	2014-2015	200,000	0
GCP/RER/044/TUR	食糧安全保障のためのECO地域調整センター (RCC-FS)	2013-2016	499,211	341,644
GCP/SEC/001/TUR	中央アジア諸国における牛の生産性向上	2011-2014	600,000	323,661
GCP/SEC/002/TUR	中央アジアおよびコーカサスにおける山岳部流域の持続的管理のための能力開発	2012-2014	300,000	231,294
GCP/SEC/004/TUR	コーカサスおよび中央アジアにおけるより良い国家および地域のイナゴ管理	2012-2017	600,000	0
GCP/SEC/006/TUR	FAO-GIEWS 価格データベースと分析手段	2013-2014	150,000	126,014

2) 世界銀行

キルギス共和国は 1992 年世銀に加入。その後世銀からは 41 件、68 億米ドル以上のローンが認可され、その 74%である 50 億米ドル以上が拠出されている。

①第二農場灌漑プロジェクト補足融資

地域	ヨーロッパおよび中央アジア
認可	2011 年 6 月 28 日
完了	2015 年 12 月 31 日
プロジェクト総額	1,505 万米ドル
拠出額	1,500 万米ドル

②牧草と家畜管理改善プロジェクト

地域	ヨーロッパおよび中央アジア
認可	2014 年 7 月 15 日
完了	2019 年 3 月 31 日
プロジェクト総額	1,500 万米ドル
拠出額	1,500 万米ドル

③農業生産性支援プロジェクト (APAP)

地域	ヨーロッパおよび中央アジア
認可	2011 年 6 月 6 日
完了	2015 年 3 月 31 日
プロジェクト総額	763 万米ドル
拠出額	0

④第二農場灌漑プロジェクト

地域	ヨーロッパおよび中央アジア
認可	2007年6月19日
完了	2013年12月31日
プロジェクト総額	2,055万米ドル
拠出額	1,600万米ドル

3) アジア開発銀行 ADB

①カントリーパートナーシップ戦略 (2013-2017)

経済成長、投資環境の改善、経済的可能性を利用するための格差是正を目指す。

- ・農業セクタープロジェクト 4件 9,600万米ドル/7.47%

②南部農業地域発展プロジェクト

- ・形態：ローン、交付金
- ・No.：0073
- ・認可：2007年1月29日